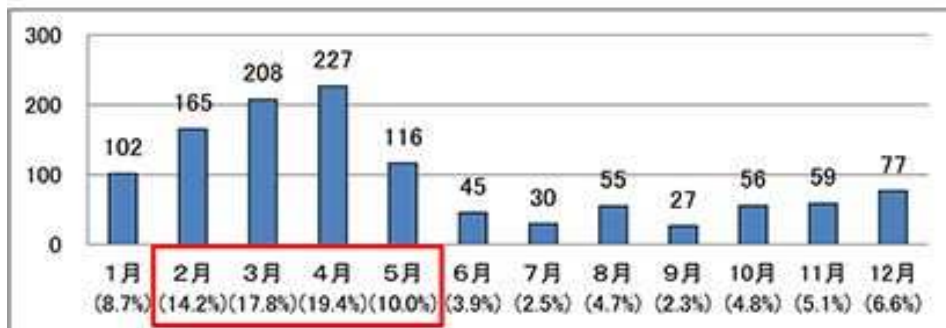


2月から急増する林野火災。 事業所周辺の『延焼リスク』を管理しましょう！

林野火災の月別出火件数(令和2年～6年の平均)



※平均値及び割合は四捨五入したものであり、合計が合わないことがある
総務省消防庁資料より引用



例年、春先にかけて林野火災が多発します。冬から春に林野火事（山火事）が多く発生する理由は以下の条件が揃いやすいからです。

- ・春先は大陸から乾いた空気が流れ込みやすく**空気が乾燥**する。
- ・西高東低の冬型の気圧配置や発達した低気圧などの影響によって**強風や暴風**も吹きやすい。

これらの気象条件に加えて、春の森林には乾いた落ち葉が溜まっているため、ひとたび火がついてしまうと火事が拡大しやすくなります。山間部や緑地に隣接する事業所にとって、近隣からの「もらい火」は、自社資産への損害だけでなく、操業停止（BCPの停滞）を招く重大なリスクとなります。

ご存じですか？ R8.1.1～ 林野火災注意報・警報 運用開始

林野火災注意報

以下のいずれかに該当する場合

- ①前3日間の合計降水量が1mm以下かつ前30日間の合計降水量が30mm以下のとき
- ②前3日間の合計降水量が1mm以下かつ乾燥注意報のとき

発令地域での屋外の火の使用中止の努力義務(罰則なし)

林野火災警報

林野火災注意報の発令基準に加え、**強風注意報**が発表された場合

発令地域での屋外の火の使用の制限(罰則あり)

※市町村により条例の制定状況や、発令指標、火の使用制限の内容などは異なります。詳しくは管轄の消防本部等にお問い合わせください。

★今すぐ確認★ 2月の重点安全管理チェック項目

- ☐ 屋外喫煙所の徹底管理
吸い殻の清掃状況は万全ですか？強風時の利用ルール周知も行いましょう。
- ☐ 「死角」の可燃物撤去
建物の裏手やフェンス際に、風で飛ばされた枯れ葉やゴミが溜まっていませんか？
- ☐ 作業現場の火気厳禁
屋外での溶接や切断作業時、火花の飛散防止対策を強化しましょう。



小さな火種が企業の信頼を揺るがす事態になりかねません。この時期の点検強化が、春以降の安全操業につなげましょう。

